

7月4日木の日研修実施報告

【題名】 高尾山昆虫記

【講師】 宮入芳雄氏（FIT 平成5年： 林野庁東京神奈川森林管理署森林保護員）

【場所】 林友ビル6階会議室

【日時】 2019年7月4日

【実施概要】 高尾山山域で観察される昆虫についての解説とそこにおける植物の紹介

【参加人数】 39名（含神奈川会2名・埼玉会1名）（申込者48名うち9名欠席）

【報告者】 飯塚義則（平成29年福樹会）

【本文】

宮入さんは平成18年に林野庁の森林保護員となられ、爾来、森林保全管理活動に従事されるかたわら、高尾山の植物や昆虫の写真を数多く撮影され、私達も宮入さんの著書やFITのHPを通じて少なからずその恩恵にあずかっている。今回の講演では、近刊でご本人の二冊目の著作となった『高尾山昆虫記』に沿い、高尾山山域で見られる昆虫を中心に植物についてもお話を頂いた。

宮入さんのお話について、あらためてざっくりとした地域分けをしてみたい。それは、八王子城山を含む北高尾山稜と周辺域、小下沢とその周辺域、小仏城山から大垂水峠、南高尾山稜と周辺域、日影沢から小仏城山に至る林道と周辺域、小仏城山から高尾山への稜線と周辺域、その他という様に分けることができよう。昆虫の話をしながらか、各々の区域のポイント、ポイントでの景観やどのような植物を目にすることができるか話を聞くことができ、楽しく興味深い講演であった。

例えば、小下沢林道やその周辺では、カラスアゲハ、テングチョウ、オオトラコガネ、アオバセセリなどの昆虫を見ることができるが、ハナネコノメ、ギンバイソウ、シロマイコ、ハンゲシヨウ、ヤマブキソウ、セリバヤマブキソウなどを季節になると観察できるとか、林道の奥は東作業道と呼ばれ、山梨県の東林業が作った道で、沢は溪谷を成し、大岩がせりだし、岩の間からは水が滾々と湧き出て、昔は蝶の谷と呼ばれたといったお話を頂いた。もう一例を挙げれば、日影沢から小仏城山への林道やその周辺については、オオゴキブリ、オオミノガ、スミナガシ、オダマキトリバなどの昆虫について説明を頂いたが、併せて小仏城山の巻道の周辺ではフジレイジンソウ、ベニバナヤマシャクヤク、ヤマシャクヤク、スズムシソウやランの仲間も見ることができ、沢の入口付近ではキクサキイチゲ、ラショウモンカズラ、タカオスミレなどを観察できるといった話も頂戴した。終始、この様な感じで講演は続いた。

宮入さんは、ご自身は昆虫の専門家ではなく写真家であると説明しておられましたが、皆さんの役に立つ話をできればよいと仰って、昆虫のみならずご自身の足と眼で確かめられた植物についても解り易く解説して頂きました。とても実のあるお話にあらためて感謝申し上げます。要約するにしても、全てを記載するには紙面の制約もあります。詳細については冒頭に紹介しました宮入さんの著書をご参照ください。



著書『高尾山昆虫記』



講演中の宮入さん



研修開始前の会場の雰囲気



講演開始



最近見なくなった蕨虫を語る



参加者と団欒する宮入さん